文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
平成 27 年度
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

博多湾岸《金印ロード》プロジェクト

事業の趣旨　金印が発見された志賀島、そして、金印を展示する博物館があるまちシーサイドももち地区の２つの地域コミュニティとともに、さまざまな人の力を借りながら、博多湾岸の魅力を発掘・発見・発信する

事業の概要　１）文化庁「文化芸術振興費補助金」（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の交付を受けて実施
２）推進体制：博多湾岸《金印ロード》プロジェクト実行委員会

合意形成プロセス

博多湾岸の歴史・文化資源の魅力を市民とともに発掘・発見するために、さまざまなイベントを開催しました。

◆志賀島を走るバス路線を盛り上げるために、福岡市文化振興財団と連携し、「志賀島ぐり～ん号」車内に、金印缶バッチ★ガチャガチャを設置しました（H27.10.10-12.13）。

◆志賀島にて、ワークショップ「本日開館！　福★おかし博物館」を開催しました(H27.10.17)。チョコレートで、古代の鏡や金印をつくりました。

◆第 9 回志賀島金印まつりと連携

◆福岡市博物館の前庭にて「金印まつり in シーサイドももち」を開催しました（H27.10.18）。メインイベントは、「夢のタイムカプセル封印式」。志賀島や百道浜の小学生や、来館者の方々から寄せられた未来への一言メッセージを、「こども奴国大使」が金印で封印しました。また、オープニングとクライマックスは、金印太鼓の演奏でした。

◆第 9 回志賀島金印まつりと連携

◆夢のタイムカプセルに納める木簡をつくるために、百道浜小学校、西戸崎小学校にて、かんたんな講座を行い、みんなに木簡を書いてもらいました。

◆シンポジウム「志賀島から考える福岡の歴史資源」（H27.10.25）、「金印論争終結！？」（H27.11.08）、トークセッション「博多湾の歴史と都市の哲学　～シーサイドももちと博物館～」（H27.12.11）を開催しました。

策定・発信プロセス

イベントやシンポジウムをつうじて発掘・発見した博多湾岸の歴史・文化資源の魅力を発信するために、各種のアイテムを制作しました。

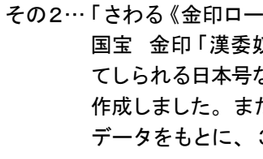
◆プロジェクトを象徴するロゴとシンボルマークをつくりました。
◆金印発見のしま・志賀島、そして、金印のある福岡市博物館とのあいだの博多湾岸にひしめく歴史遺産の代表的なものを紹介するパンフレットをつくりました。
◆志賀島と福岡市博物館とのあいだを行き交う人の流れをつくるために、福岡空港、および博多駅にアイキャッチを設置しました（期間限定）。
◆福岡市博物館の「パノラマふくおか」ルームに、「博多湾岸《金印ロード》ガイダンスコーナー」を設けました。

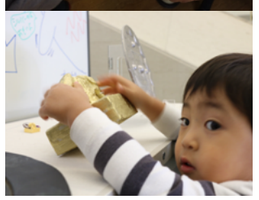
博多湾岸の歴史・文化資源の魅力を発掘・発見し、発信していくーそこにある意味、そこにある課題を、これからも考えていくために、さまざまなイベントを行いました。

◆ 3/19（土）、志賀島で行われた「現代の金印を探せ。体験！志賀島」に参加し、プロジェクトについて報告しました。
◆ 3/27（日）、城内の三の丸スクエアで、さまざまな成果を発表する展示、および研究会「歴史資源×デジタル技術×ユニバーサルデザイン　～まちとミュージアムの未来を拓く～」を開催しました。

ユニバーサルデザインへの取り組み

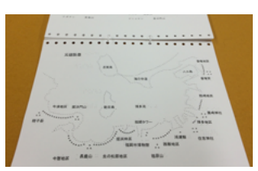
博多湾岸《金印ロード》プロジェクトの大きな柱の一つは、ユニバーサルデザインへの取り組みにあります。平成 27 年度は、視覚以外の感覚をとおして、歴史・文化資源の魅力を知り、楽しむための方法を、さまざまな人の力を借りて考えました。

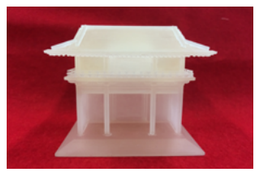




◆ミュージアムの現場で、ユニバーサルデザインに取り組む全国の仲間たちを訪ね、調査に行き、また、シンポジウムに参加をしました。

◆福岡市博物館の秋の特別展覧会「新・奴国展　ふくおか創世記」と連携し、福岡市の「ユニバーサル都市・福岡フェスティバル 2015」の関連事業として、「金印ユニバーサル博物館２　さわる奴国のおたから」を開催しました（H27.　11．3～12.3）。実物の５倍の大きさの金印レプリカを作成し、自由に手に取ることのできる展示物としました。このレプリカは、福岡市立点字図書館の「第 18 回点字図書館のつどい」での文化講演「おもしろ考古学、最新ウラ話」（H27.10.25）でも活用され、好評を得ました。





◆視覚以外の感覚をとおして、福岡の歴史・文化資源の魅力を知ることの助けになるツールを作成しました。
その１…「さわる《金印ロード》ガイドブック」
国宝　金印「漢委奴国王」の印面の図や、金印発見の島・志賀島や博物館のあるシーサイドももち地区の図、元寇防塁の図などを、視覚障がい者、晴眼者の双方が「見て」分かる点図で作成しました。
その２…「さわる《金印ロード》の宝もの」
国宝　金印「漢委奴国王」や、民謡・黒田節に謡われ「呑み取りの槍」としてしられる日本号など、地域を代表する文化財のレプリカを、３D出力による作成しました。また、古代の迎賓館・鴻臚館のコンピュータ・グラフィックのデータをもとに、３D 出力により、当時の建物のミニチュアを作成しました。